

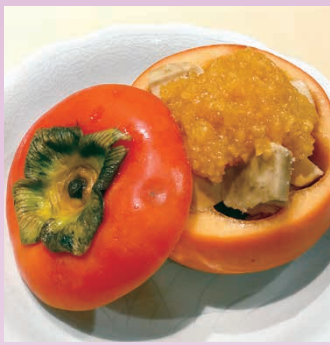
JA全農ウィークリー

2面

長澤会長が東日本大震災被災地訪問

3面

アメリカで和歌山県産柿PRイベント



アメリカでの和歌山産柿PRイベントの試食会で出された「あん肝のみぞれ柿あんかけ」(3面)



新しい天敵資材として期待が高い「バンカーシート」(7面)



東日本大震災被災地を訪問し、福島県伊達市のJAふくしま未来の菅野孝志組合長㊤からあんぽ工房みらいの説明を聞く長澤豊会長㊤と福島県本部運営委員会の大橋信夫会長(2面)

- 4 JAズームイン(JAごとう)
- 5 県本部だより(滋賀県本部)
- 6 ニュース&トピックス(園芸部、広島県本部)
- 7 ニュース&トピックス(営農・技術センター、生産資材部)
- 8 コミュニケーション(燃料部、JAタウン)



長澤会長が東日本大震災被災地訪問

「すべては組合員のために」支援を約束

全農経営管理委員会の長澤豊会長は、年末から年始にかけて東日本大震災・福島第一原発事故の被災地の宮城、福島両県を訪問しました。【広報部】



▲宮城県JAみやぎ亘理管内のやまもとファームみらい野でトマト団地を視察する長澤会長(右から3人目)ら



▶福島県伊達市でJAふくしま未来の菅野組合長㊦からあんぼ工房みらいの説明を聞く長澤会長㊤と福島県本部運営委員会の大橋会長

昨年12月27日に、宮城県内のJAみやぎ亘理や亘理町役場、JA南三陸など5カ所を回り復興状況を視察しました。

JAみやぎ亘理では村山裕一組合長から管内の農業復興状況について話をうかがい、長澤会長は「全農は改革にスピード感をもつて取り組んでいく。特に営業力強化が大事だ。注目してほしい」と述べ、これからも一緒に頑張って復興に取り組んでいく考えを示しました。

その後、亘理町の齊藤貞町長を表敬訪問、町の観光資源である温泉を活用し、農業振興や町の復興につなげたいなどの話をうかがいました。

管内のイチゴ団地や、やまもとファームみらい野のトマト団地も視察しました。

最後にJA南三陸本店を訪問し、遠藤一男組合長からパンフレットに基づいて復興の経過説明があり、「全農には災害発生当初から支援いただいております。感謝しています。しっかりと取り組みのおかげで農地面積は震災前と比較し減少しているが、JAの利用者は震災前より増えている」といった

話をうかがいました。

また、1月12日には福島県内の復興状況を視察しました。伊達市にあるJAふくしま未来管内で平成28年に稼働したあんぼ柿原料加工施設では、福島県本部運営委員会の大橋信夫会長、同JAの菅野孝志組合長から取り組みの説明があり、「工房が稼働し、あんぼ柿の生産基盤は回復しつつある。地元の雇用創出にも役立っている」と大橋会長から話がありました。長澤会長は、「今後も農家の要望を把握し、『全ては組合員のために』なる支援をしていく」との考えを示しました。

さらに津波被害地域の相馬市で水稻や大豆など81鉢を栽培している「飯豊ファーム」、南相馬市で遊休農地を再生し、タマネギ5.5鉢を作付けている「豊かな福島をつくる豊福ファーム」を訪問しました。飯豊ファームでは、東京農大の後藤逸男名誉教授が除塩指導を行って成果を上げていることが紹介され、長澤会長は同大学の出身であることに触れ「東京農大が現場に入っている話をうれしく思う」と述べ、産学連携の重要性にも言及しました。

全農は今後とも災害からの復旧復興に向けて、被災地のニーズに即した取り組みを進めていきます。

アメリカで 和歌山産柿の PRイベント



和歌山産柿のおいしさを説明するJA紀北かわかみの宮崎組合長(後方左)

ビバリーヒルズの全農和食レストランに 卸売業者ら30人を招きセミナー、試食会

昨年10月に日本産柿の対米輸出が解禁されたことを受けて1月12日、アメリカ西海岸ビバリーヒルズにある全農の高級日本食レストランShiki Beverly Hillsで、和歌山産柿のPRイベントが開催されました。

【全農アメリカ(株)】



1 柿のフルコースに舌鼓を打つレストランのシェフ 2 あん肝のみぞれ柿あんかけ 3 柿とくらげの胡麻酢あえ 4 柿の天ぷら

このイベントはジェトロ(日本貿易振興機構)が主催し、食品卸売業者やレストランのシェフ、量販店のバイヤーなど約30人を招いてセミナーと試食会が行われました。

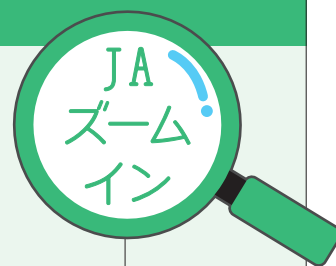
この日提供された柿は、収穫量日本一を誇る和歌山県のJA紀北かわかみが出荷したもので、宮崎卓郎代表理事組合長から、生産者が土壌・水分管理や樹の選定・摘果を手作業で丁寧に行っていること、厳しい選

果基準による品質の安定に努めていること、そして糖度や栄養価の高さについて説明しました。

試食会では、Shiki Beverly Hillsの杉山料理長が、和歌山産柿の甘みを最大限に引き出すべく腕を振るい、和歌山産の梅酒を使った柿パンチ風に始まり、あん肝のみぞれ柿あんかけ、柿の天ぷら、サケの棒ずし、柿の酢じめ載せ、柿寒などの柿のフルコースで参加者らを魅了しました。

参加したレストラン関係者は「大ぶり、ツヤがあって甘い。デザートだけでなく、さまざまな料理に活用できそう」と感想を述べていました。

日本産の柿は、すでにバンクーバー(カナダ)や香港、タイ、マレーシアで販売され好評を得ており、アメリカへの輸出も解禁されたことで、新たな市場の開拓に期待が寄せられています。



島の農業の継続・振興へ

地域に密着、つながり強化

JAごとうは、肉用牛を中心に高菜、スナップエンドウ、ブロッコリーなどを生産しています。販売品取扱

高の約6割を占める畜産業は繁殖が主で、五島家畜市場には年間約3000頭の子牛を上場しており、購買者の評価が高い市場です。

購買者から
評価が高い
五島家畜市場

福江みなとまつりでJAごとうをPR

肉用牛増頭へ 賃貸牛舎を建設

肉用牛増頭では平成27年度からは畜産クラスター事業を活用し、昨年度末までに560頭規模の賃貸牛舎を建設、今年度は550頭規模の賃貸牛舎と300頭規模の第2子牛共同育成施設を建設中です。

園芸部門では、農家の高齢化や離島が抱える輸送コストというハンディキャップを乗り越えるべく、軽量・高単価品目のスナップエンドウなど豆類や、1次加工し体積を減らした塩蔵高菜生産に力を入れています。

地域とのつながり強化や地域住民に協同活動や農業への理解を深めてもらうこ

JAごとう (長崎県)



力を入れる塩蔵高菜漬け込み④と6次産業化で販売を始めたレトルト食品

とを目的に、毎年恒例の農業まつりの開催に加え、近年ではスポーツ大会(少年サッカー、少年ソフトボール)の開催や地域の各種イベントへ積極的に参加しています。イベントへの参加は高齢化で衰退がみられる五島を元気づけるとともに、地域住民からの評判も上々で、

JAとの関わりが薄い方々に対してイメージアップの良い機会となっています。

生産経費支援や独自の 後継者育成対策積立金

栽培面積の維持・拡大を目的とした生産経費支援や農家経営コスト削減における生産資材の計画・予約購買の徹底、さらに地元農畜産物の6次産業化(昨年10月からレトルト食品の販売開始)などさまざまな取り組みで農業所得向上に努めています。

独自に創設している後継者育成対策積立金事業では、農業高校、農業大学校就学時の奨学金貸与や青年部が取り組む婚活イベント費用の助成などを行っています。

概要	平成29年3月31日現在
正組合員数	3943人
准組合員数	8891人
職員数	387人
販売品取扱高	51億6千万円
購買品取扱高	45億3千万円
貯金残高	569億2千万円
長期共済保有高	3167億2千万円
主な農産物	畜産、塩蔵高菜、 ブロッコリー、スナップエンドウ、 中玉トマト

県本部 だより

滋賀県本部



地下水制御システム導入 営農モデルの確立目指す モデル圃場を研修の場にも

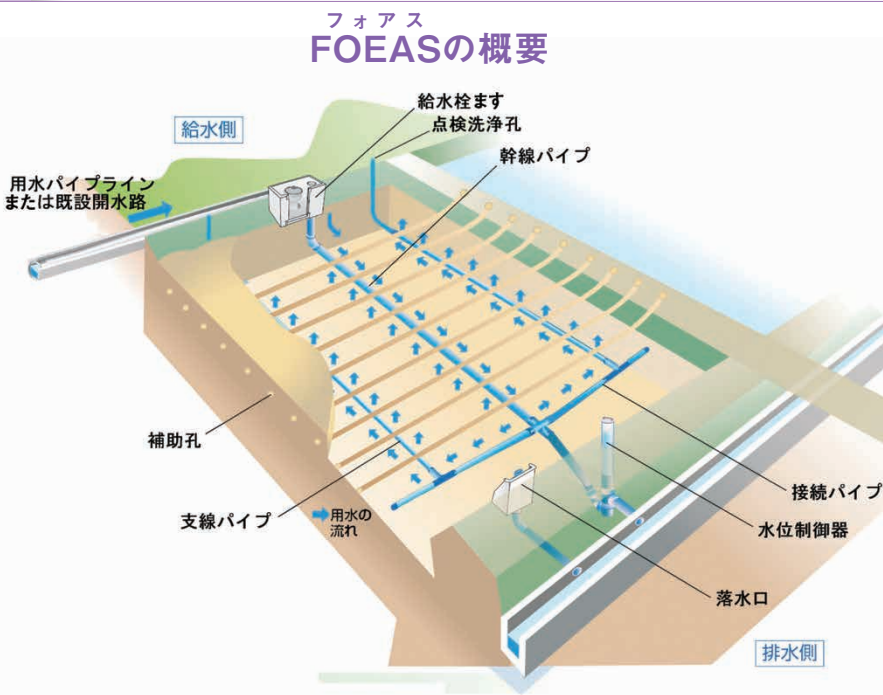
滋賀県本部は「農家組合員の所得増大」に向けた取り組みの一つ、「生産から販売までのトータルコスト低減メ

ニュー」の中で、今年度から地下水制御システム「FOEAS」の導入に取り組みました。県内2カ所にモデル

圃場を設け検証し、営農モデルの確立を目指します。この取り組みを広くPRするとともに、JAや県本部職員の営農に関する研修の場としても活用したい考えです。

水田をフル活用し 麦や大豆・野菜拡大

稲作中心の滋賀県では、経営安定化を図るため稲作だけでなく麦や大豆・野菜



東近江市で開かれたFOEASの現地見学会

などの生産にも力を入れ、

水田をフル活用する必要がありと考えています。それには転換畑での湿害や干ばつが大きな課題となります。

そこで、圃場内の地下水位をコントロールすることが出来る地下水制御システム「FOEAS」の導入が有効と考えました。

FOEASとは、地中に埋設した暗渠管と補助孔、水位制御器を通じて圃場内の地下水位をコントロールすることにより、乾燥時には地下灌漑、大雨時には地下排水を行って、湿害や干ばつのリスクや豪雨による被害を最小限に抑えることができます。さらに、作物の生育に合わせて適期に最適な土壌水分にすることが可能で、発芽ぞろえの向上、苗活着促進、品質・等級の

向上、収量増加などが期待されます。

平成32年度まで 2カ所で実証試験

「FOEAS」を導入するため「営農モデル圃場」を設置し、麦・大豆・野菜の品質・生産性向上と農業所得向上を図ることを目的とした実証試験（平成29～32年度）をスタートしました。

設置したモデル圃場の1カ所では60㍓でキャベツを定植し、その後も畑作物の作付けを計画しています。もう1カ所は62㍓で小麦栽培の実証に取り組み、その後はキャベツを作付ける予定です。

設置した営農モデル圃場では、作物の単収や農業所得、資材費なども比較調査し、検証していきます。

東近江市でFOEAS導入
小麦後作にキャベツ
全農などがモデル圃場設置



モデル圃場設置を伝える記事（平成29年10月1日付日本農業新聞近畿版）

News!



旬のおいしい野菜をいっぱい食べて

JAビルで「だいこんたっぷり野菜鍋フェア」

園芸部



ダイコンをPRする三浦市農協の高梨部長（左から2人目）



ダイコンをはじめ旬の野菜が入った鍋

園芸部はJA全中と共催で1月19日、東京・大手町のJAビル4階ミノーレで「だいこんたっぷり野菜鍋」とダイコンの即売会を開きました。

「大寒」の前日にたくさん

の野菜を食べて風邪を吹き飛ばそう!と、秋冬だいこん主産県協議会(千葉県本部、神奈川県本部、徳島県本部、長崎県本部)のダイコンを中心に旬の野菜がたっぷり入った鍋とダイコンを販売しました。(株)ダイショー協賛の鍋スープと、ダイコンやニンジン等をピーラーで薄切りにする時短レシピで提供した温かい鍋は、ランチを買い求める近隣勤務者に好評で、1杯100円だったこともあり、予定終了時間前に完売しました。

間前に完売しました。

鍋を食べた人たちは、「鍋で体が温まる!」「昼に野菜がたっぷり取れた」とさっそく即売会場で旬を迎えたダイコンを買い求めています。

また、日本橋「ゆかり」野永三代目による和食塾を同時開催し、抽選で選ばれた50人が参加しました。秋冬だいこん主産県協議会のダイコンと(株)ダイショーの鍋スープを使用したレシピによる講義には、手軽に家庭で作れるダイコンレシピに驚き、ダイコンPRを行った神奈川県・三浦市農協の高梨部長のコメントにメモを取る姿が見られました。

News!



カープディナートークショーで県産農畜産物PR

オリジナルコース料理楽しみ、県産米食べ比べも

広島県本部



広島県本部が行った県産米3品種の食べ比べ

JAグループ広島は平成29年12月18日、広島市のANAクラウンプラザホテルでカープディナートークショーを開きました。県産農畜産物を味わって興味を持ってもらおうと企画。広島東洋カープの野間峻祥選手、鈴木誠也選手、西川龍馬選手によるトークショーを行い、県産農畜産物をふんだんに使ったオリジナルコース料理を提供しました。

定員300人のうち50人は、8~9月に県内のファーマーズマーケットで実施したスタンプリリーの参加者から抽選で招待しました。

広島県本部は会場内にブースを設け、県産米「恋の予感」「あきさかり」「コシヒカリ」を食べ比べて品種を当ててもらおう企画を実施。参加者は注意深く試食すること

で普段あまり気付かない品種による違いを実感していました。トークショーで選手も食べ比べに挑戦。JAお米のアンバサダーが品種の特徴を解説しました。また、料理に使った県産野菜や抽選会景品の広島血統和牛「元就」と「カープ応援米」の提供にも協力し、イベントを盛り上げました。

広島市の大学生、鳥井遥香さんは「選手に会えて幸せな時間でした。料理はどれもおいしく、自分の住む地域で取れた野菜も使われていて地元の野菜を知ることができました」と笑顔で話してくれました。

広島県本部は今後も、JAグループ広島で一体となり県産農畜産物の認知向上と消費拡大に取り組みます。



新しい天敵資材「バンカーシート」

総合的害虫管理の基幹防除剤として期待

営農・技術センター 農業研究室



害虫数を調べる担当者とイチゴへのバンカーシートの設置状況④

食の安全と環境保護への強い関心が高まる一方、生産現場では農薬防除による薬剤抵抗性問題を受け、総合的害虫管理（IPM）が注目されています。このようなニーズに応えるべく、全農は天敵保護装置「バンカーシート」を用いたIPMの普及に取り組んでいます。

天敵利用は、天敵の使用タイミングが難しいことや併用可能な化学農薬が限られることが課題として挙げられます。バンカーシートは、天敵パック製剤を耐水紙で包んだものであり、気温・湿度の環境変化を和らげ、農薬や散水で天敵パックが濡れることを防ぎ、天敵が生存しやすい環境を提供することができます。また、天敵パック製剤とともに使用される天敵の産卵基質および保湿

資材により、長期間にわたり天敵カブリダニが放出されるため、圃場に害虫が発生する前から設置することが可能になります。

バンカーシートには、ハダニ類を捕食するミヤコカブリダニパック製剤を用いた「ミヤコバンカー」とコナジラミ類、アザミウマ類を捕食するスワルスキーカブリダニ製剤を用いた「スワルバンカー」があり、抵抗性を発達させやすい前記害虫への高い効果と化学農薬使用回数低減が期待できます。

全農は営農・技術センターをはじめ、全国各地で実証試験を行い、バンカーシートを活用したIPMの普及拡大を図っています。

※バンカーシートは、農研機構・中央農業研究センターを中心とした農食事業実用開発ステージ260700Cで確立された実用化技術です。



大型トラクターの共同購入提案活動実施中

生産者の声を反映した60馬力クラス1000台目指す

生産資材部

全農は、担い手からの生産コスト低減要望に応え、生産現場の声を反映した60馬力クラスの低価格モデルトラクターの共同購入に取り組んでいます。「共同購入の取り組み」を分かりやすく生産者に伝えるパンフレットとDVD（動画）を作成し、全農ホームページに公開しました。今後、パンフレットと動画は担い手への個別訪問時や会議・研修会などの場で広く紹介していきます。

共同購入の目標台数は全国で1000台（平成30～32年・3カ年）で、県域担い手サポートセンター、県域TAC部署の協力を得ながら生産者への提案活動を行い、今年3月末までに共同購入事前申し込みのとりまとめを進めています。

JAグループの組織力を生かし、広く生産者に共同購入を呼び掛け、事前申し込みで積み上げた台数を背景に全農が大量・一括購入することで、担い手へより安く供給することを目指します。



全農ホームページ「トラクターの共同購入」のコーナーはこちらから



全国が生産者が共同購入に結集し低価格を実現しよう!

JAグループは、生産現場の声を反映した大型トラクターを開発製造しました

生産現場の声

価格 低価格	機能 多機能	特徴・見込み 作業性
-----------	-----------	---------------

キャビンエアコン 60馬力クラス 倍速ターン

自動水平 自動耕深

前・後進 16段 2.8トン 重量 オートブレーキ

JAグループ / 全農



取り組みの説明動画はこちら



クミアイプロパン 絵のコンクール

全農は33回目となるクミアイプロパン絵のコンクールの全国審査を行い、特選など入賞を決定しました。

特選など
決定

【燃料部】

クミアイプロパンキャラクター
「キャッチくん」



特選入賞作品



尾家遼さん(1年)



宮本明佳さん(3年)



樋口奄那さん(6年)

コンクールには全国10県29JA管内の186の小学校から5401点の応募がありました。東京・大手町の全農本所で行われた審査には143点が進出。厳正な審査の結果、低学年(1、2年)、中学年(3、

4年)、高学年(5、6年)の各部から計22点の入賞作品が選ばれました。

審査講評では「LPガスにまつわる思い出が描かれている作品が多く、あらためて人々の生活に

LPガスが不可欠であることが感じられた」「どの部門もレベルが高く、生き生きとした子どもの自由な発想が描かれている作品が複数あった」など高い評価の声がありました。

全農 ZEN-NOH

JA全農
オフィシャル
アプリ

トピックス ポイント クーポン

「食と農」の情報を広く消費者へ!
スマホアプリを公開中

JA全農のイベントや新商品に関する最新情報がさらに充実!

作動環境: スマートフォン iOS8以上 Android4.3以上



JAタウン
ショップ紹介

JAタウン |

検索
クリック

飛騨・美濃うまいもん広場 (JA全農岐阜)



新品種「華かがり」(岐阜県産いちご)
(9、12粒、化粧箱入り)……
4500円

新しく「岐阜いちご」のオリジナル品種に仲間入りした「華かがり」をご紹介します。

齊藤道三や織田信長とゆかりの深い岐阜城を山頂に構える金華山の「華」と、長良川鵜飼の「かがり火」を真っ赤な果実に見立てて「華かがり」と命名されました。果皮は真っ赤で、果形はきれいな円すい形をしています。従来ブランド「濃姫」「美濃娘」に比べ、粒が一回り大きく、果汁たっぷり、ジューシーな果肉が特長です。

ぜひこの機会に新品種の「華かがり」をご賞味ください。

なお、ご紹介した商品は、2/14(水)まで、FAXでもご注文を承ります(ご自宅宛代金引換のみ)。

【ご注文方法】①商品名、規格、数量②郵便番号③住所④氏名⑤電話番号⑥FAX番号をご記入のうえ、FAX番号03-5218-2517までご送信ください。

商品代金のほか、クール代、お届け先により送料が必要となります。

JA全農のインターネット
ショッピングモール

▶ご注文は <http://www.ja-town.com>

▶お問い合わせは shop@ja-town1.com

※本誌を通じていただいた注文などで取得した個人情報は、商品等の発送にのみ使用します。